

○計画期間：平成24年12月～平成30年3月（5年4月）

## I. 中心市街地全体に係る評価

### 1. 平成26年度終了時点（平成27年3月31日時点）の中心市街地の概況

本市は、平成24年12月以降、認定基本計画に基づき「新しい街なかの暮らし方を実感できる基盤を充実させる」「街なかの回遊性を向上させる」という目標のもとに各事業を実施している。

計画に登載された51事業のうち46事業が予定通り事業着手または完了しており、概ね順調に進捗していると言える。

ハード事業については、主要事業である「新図書館の整備」及び「新資料館整備事業」が平成25年度にともに入札不調となり着手が遅れが見られたが、平成26年5月に再入札を行い、7月には建築主体工事が着手された。

中心市街地に位置する唯一の大学である高知県立大学の永国寺キャンパスも、文化学部が拡充されると共に、高知工科大学の経済・マネジメント学群の設置に向けて整備が行われていたが、平成27年3月に完成し、今後街なかを多くの学生が回遊することが期待される。

そのほか、賃貸マンションと商業施設を併設した「(仮称)帯屋町二丁目複合施設」の建設が平成27年度の完成に向けて進められている。

ソフト事業については、従来から「よさこい祭り」や「土佐のおきやく」など、各商店街が年間を通じて各種イベントを実施していたが、商店街のファンづくりを目指した「高知まちゼミ」が定期的で開催されるなど、新しい取り組みも行われているところである。

平成26年度は、複数の老舗店舗が後継者不足等から閉店したが、跡地に創業する店舗もあり、商店街の新陳代謝が見られた。

### 2. 平成26年度 of 取組等に対する中心市街地活性化協議会の意見

平成26年度は、計画に位置づけられている主要事業である「新図書館の整備」及び「新資料館整備事業」の建築主体工事が着手された。また、参加者及び参加店舗も毎回増加している「まちゼミ」などの各種イベント事業も継続して開催されており、中心市街地の賑わいの創出につながっている。計画に登載されている全51事業のうち46事業がこれまでに着手済みとなっており、計画の進捗については概ね順調であると評価できる。

しかしながら、目標指標のうち「中心市街地の居住人口」の推移については減少傾向に歯止めがかかりつつあるものの、「歩行者通行量」の推移は想定を下回っている状況にある。

これは、指標の根拠となる主要事業が完了していないことが主な理由であり、事業完了時期には上昇傾向になると見込まれるが、今後も引き続き、各事業の着実な進捗を図っていくことを期待する。

## II. 目標毎のフォローアップ結果

### 1. 目標達成の見通し

目標	目標指標	基準値	目標値	最新値	前回の 見通し	今回の 見通し
新しい街なかの暮らし方を実感できる 基盤を充実させる	中心市街地の居住人口 (評価指標)	5,017 人 (H22)	5,145 人 (H29)	4,951 人 (H26)	—	③
街なかの回遊性を 向上させる	歩行者通行量 (平日・休日合計) (評価指標)	103,249 人 (H23)	105,916 人 (H29)	95,061 人 (H26)	—	③

#### <取組の進捗状況及び目標達成に関する見通しの分類>

- ①取組（事業等）の進捗状況が順調であり、目標達成可能であると見込まれる。
- ②取組の進捗状況は概ね予定どおりだが、このままでは目標達成可能とは見込まれず、今後対策を講じる必要がある。
- ③取組の進捗状況は予定どおりではないものの、目標達成可能と見込まれ、引き続き最大限努力していく。
- ④取組の進捗に支障が生じているなど、このままでは目標達成可能とは見込まれず、今後対策を講じる必要がある。

### 2. 目標達成見通しの理由

#### (1) 「中心市街地の居住人口」について

評価指標の根拠となる主要事業は①「(仮称) 帯屋町二丁目複合施設整備事業」、②「セントラルレジデンス高知中央公園」整備事業の二つであり、①は平成 27 年 8 月完成予定、②は分譲中である。ともに入居完了予定となる平成 27 年後半から居住人口が増加し、目標を達成する見込みである。

#### (2) 「歩行者通行量」について

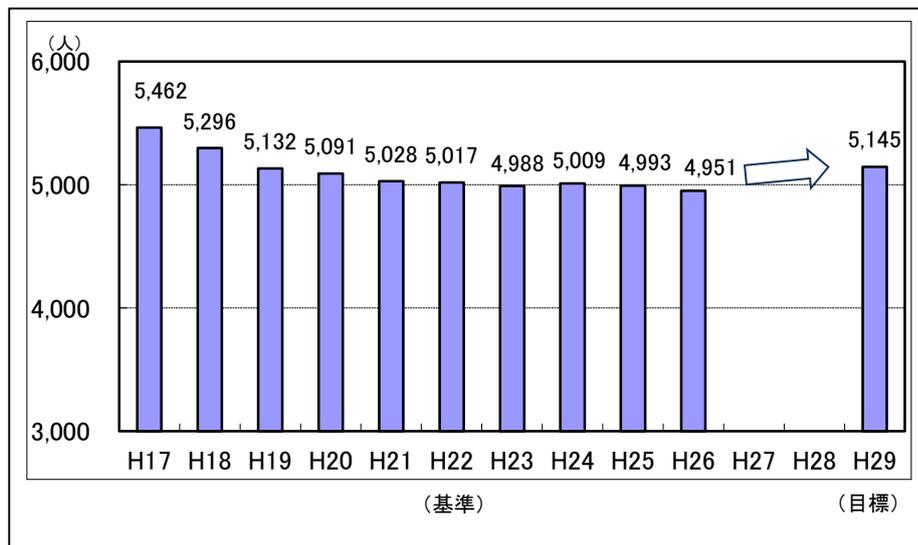
歩行者通行量は平成 23 年度の基準値 103,249 人と比較して 8,188 人減少の 95,061 人となった。評価指標の根拠となる主要事業が完了していないため、今後完成する各種施設等の効果により、来街者の増加が期待できる。

### 3. 前回のフォローアップと見通しが変わった場合の理由

前回フォローアップは実施していない。

#### 4. 目標指標毎のフォローアップ結果

「 中心市街地の居住人口 」 ※目標設定の考え方基本計画 P45 参照  
調査結果の推移



年	人
H22	5,017 (基準年値)
H23	4,988
H24	5,009
H25	4,993
H26	4,951
H27	
H28	
H29	5,145 (目標値)

※調査方法：計画区域内の町丁別住民基本台帳人口

※調査月：毎年4月1日

※調査主体：高知市

※調査対象：計画区域内の居住者

#### ●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

##### ①. 「セントラルレジデンス高知中央公園」整備事業

事業完了時期	平成 25 年度【済】
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 中心市街地において新しい街なかの暮らしを支える，民間分譲マンションの建設</li> <li>・ 地下 1 階～地上 17 階（108 戸）</li> </ul>
事業効果及び進捗状況	「セントラルレジデンス高知中央公園」整備事業が完了し，順次入居が始まっている状況である。8 割程度入居が完了し，約 180 人の人口増加につながった。

##### ②. (仮称) 帯屋町二丁目複合施設整備事業

事業完了時期	平成 27 年度【未】
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 物販，オフィス，生活支援サービスと住宅の複合施設を整備することで，中心市街地への来街者を創出，街の賑わいに寄与するとともに，新たな街なかの暮らしを支える。</li> </ul>
事業効果及び進捗状況	複合施設の建設は平成 27 年 8 月完了予定であり，順次 150 人規模の入居が見込まれ，中心市街地の活性化に寄与すると思われる。

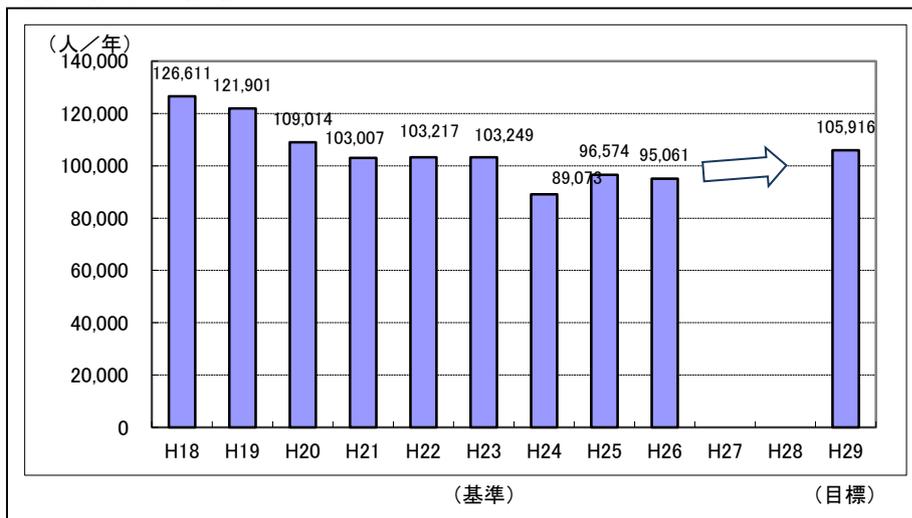
●目標達成の見通し及び今後の対策

目標数値の根拠となる主要事業は、概ね順調に進捗している。計画実施前に減少傾向にあった居住人口は、平成 24 年度に増加に転じ、平成 25 年度及び平成 26 年度は対前年に比べやや減少したものの、当初推計の減少トレンドを脱しつつある。

主要事業が完了となる平成 27 年度以降は人口増加が見込まれることから、今後も目標達成に向けて着実に進捗を図っていくこととする。

「歩行者通行量（平日・休日合計）」※目標設定の考え方基本計画 P49 参照

●調査結果の推移



年	(単位)
H23	103,249 (基準年値)
H24	89,073
H25	96,574
H26	95,061
H27	
H28	
H29	105,916 (目標値)

※調査方法：「商店街歩行者通行量調査」による

※調査月：毎年 12 月

※調査主体：高知市，高知県中小企業団体中央会

※調査対象：商店街内の歩行者

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 新図書館の整備（高知県・高知市）

事業完了時期	平成 29 年度【未】
事業概要	高知県立図書館と高知市立図書館は老朽化，狭隘化が進んでおり，『知の樹』の展開を図る県市合築の新図書館を整備するもの
事業効果及び進捗状況	入札不調となっていた新図書館の整備は，平成 26 年 5 月に再入札を行い，7 月に建築主体工事の着手となった。 今後は，平成 29 年 7 月の開館を目指し，工事等を進捗していく。

## ②. 新資料館整備事業（高知県）

事業完了時期	平成 28 年度【未】
事業概要	戦国時代から近代にいたる山内家資料を核とした高知の歴史・文化に関する資料等の保存継承・調査研究及び展示公開をし、生涯学習や学校教育に活用することにより、県民文化の振興に寄与するもの
事業効果及び進捗状況	入札不調となっていた新資料館の整備は、平成 26 年 5 月に再入札を行い、7 月に建築主体工事の着手となった。 今後は、平成 28 年度中の開館を目指し、工事等を進捗していく。

## ③. 旧少年補導センター跡地活用事業（民間事業者）

事業完了時期	平成 25～29 年度【未】
事業概要	中心市街地の市有地を活用し、新たな商業・サービス・文化等の拠点を整備することにより、来街者の増加、回遊性の向上を促進する。
事業効果及び進捗状況	平成 24 年度に決定していた事業実施者から辞退申し出があったため、事業が着手できていない状況である。 平成 27 年度は周辺の状況を注視しながら、跡地活用について引き続き検討していくものとする。

## ④. おもてなし拠点の魅力向上事業（高知市）

事業完了時期	平成 25～29 年度【実施中】
事業概要	中心市街地の玄関口である J R 高知駅周辺において、よさこいや郷土芸能の披露などにより、街なかへの回遊誘導と来街者のおもてなし空間としての魅力向上を図る。
事業効果及び進捗状況	J R 高知駅に隣接する旅広場では週末ごとによさこい鳴子踊りが披露されているほか、中心商店街でのイベント開催にあわせて旅広場においてもイベントが実施されるなど、おもてなし拠点として商店街との回遊性の向上に寄与している。

### ●目標達成の見通し及び今後の対策

各商店街でのイベント実施により賑わいが創出され、中心市街地の活性化に向けたさまざまな事業が行われているが、目標数値の根拠となる主要事業（新図書館の整備、新資料館整備事業）が未了であるため、平成 26 年度の歩行者通行量は平成 23 年度の基準値 103,249 人と比較すると 8,188 人減少の 95,061 人となった。

主要事業が完了となる平成 29 年度には歩行者通行量の増加も見込まれることから、今後も目標達成に向けて着実に進捗を図っていくこととする。

